

憲法九条を守るわかやま県民の会」ニュース

NO.96 09.4.23 発行「憲法九条を守るわかやま県民の会」事務局

県地評 Tel 073-436-3520 Fax 073-436-3554 E-mail w-chihyo@naxnet.or.jp

「海賊対処」派兵新法や国民投票準備を許さない！

JR和歌山駅前で9日宣伝行動

4月9日「憲法9条を守るわかやま県民の会」と和歌山市9条センターは11時からJR和歌山前で9日宣伝署名行動を行いました。4月上旬にもかかわらず初夏を感じさせるような中、参加者は5月9日の憲法集会のチラシを配りながら元気いっぱい通行人に署名への協力を呼びかけました。各団体から3人がマイクを握り、「国民投票の準備費用47億円が予算化され、各自治体が投票人名簿システムの整備費用を計上するなど改憲勢力は改憲への準備を着々と進めている」「自衛隊が海賊対策と称してソマリア沖に出かけて行ったが、海賊対策は本来、警察力を持つ海上保安庁のしごと。今回の「海賊対処」派兵新法で、武器使用の緩和や他国の船の保護など、アメリカと一緒に海外で戦争する道を開くことをねらっている」「9条改憲も9条破壊もゆるさない世論を広げよう。」と訴えました。京都から来た観光バスのガイドさんが、「私も京都でとりくんでいます、頑張ってください」とわざわざ声をかけにきてくれました。またある通行人は「大江健三郎さんが9条守ろうと訴えていることはよく知っています」と快く署名をしてくれたり、いったん通り過ぎた人が引返してきて署名してくれたり私たちが励まされる一幕もありました。11人の行動で、憲法署名は1時間で66筆が集まりました。

「田母神論文・自衛隊ソマリア沖派兵問題」で内藤功氏が講演

3月18日（水）夜、和歌山市勤労者総合センターで「日米同盟下の自衛隊の危険な動き」と題して日本平和委員会の代表理事の内藤功弁護士が講演を行いました。安保県民会議・憲法会議・平和委員会の主催で60人が参加しました。



内藤弁護士氏は、先ず自衛隊のソマリア派兵の問題に触れ、「『海賊対処』派兵新法では、停戦射撃、船体射撃を認め『任務遂行』のため武器使用が可能になり、これまでの政府解釈でも「許されない」とされてきた海外での武力行使に道を開くものである。さらに護衛対象に多国籍船舶（米戦艦など）を含め、他国の軍隊とともに戦う道を開いている。ソマリア沖の海賊問題に対する我国の関与のあり方は、平和憲法にふさわしい外交的、経済的努力（資金および技術協力など）がまず先行して検討されなければならない」と述べました。さらに田母神氏が

「あなた方のような人がいるから平和が守られている！」

4月19日に和歌山市で一斉署名宣伝行動

5地域で232筆



第7回市内一斉宣伝・署名行動が4月19日（日）に行われました。春の好天に恵まれたためか、出かけて留守の家も多く見受けられました。宣伝・署名行動を行った地域は、5箇所（楠見・きし・ひがし・和歌浦・本町）でしたが、参加者は元気よく行動を行い、訴えやビラ配布をおこない、署名への協力をよびかけました。この日の参加者は、5地区で38名、署名集約数が232筆でした。行動の中で、「ごころうさん、あなたがたのような人がいるから平和が守られているのです。ありがたい。」とってくれる人や、86歳のおばあさんが、黒田に住んでいて和歌山大空襲のときに爆弾が12個に分かれて落ちてきたことを昨日のこのように話してくれ、「戦争はいやだ」といって署名をしてくれる等、大きな励ましを受けました。士官学校卒業の方が、いろいろな経験を話してくれ、最後に「サンケイ新聞などが右傾化し、戦前国民を戦争に動員していった役割を繰り返そうとしている。とても気になる」と署名してくれました。また、署名はしてくれても、「ソマリアなどは日本の商船を守るためには自衛隊が行くのは必要なことだ」とか、「ソマリア沖や北朝鮮のことでは、日本もしっかり軍備をもたなあかん」という人もおられました。（和歌山市共同センターニュースより抜粋）

「5月の風に We Love 憲法」 5.9 県民の集い

5月9日（土）13:30より プラザホープ4階ホール

講演 「アメリカの世界戦略と憲法9条」

浅井基文氏（元外務省外交官・広島平和研究所所長）